



第6回恵比寿映像プレスリリース

2013/10/30

東京文化発信プロジェクト

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2014: TRUE COLORS

第6回恵比寿映像祭 トゥルー・カラース

Yebisu International Festival for
Art & Alternative Visions

**TRUE
COLORS**

第6回恵比寿映像祭

平成26年2月7日（金）～2月23日（日）

〈2月10日（月）、17日（月）を除く15日間〉10:00～20:00 最終日のみ 18:00 まで

東京都写真美術館 全フロア／恵比寿ガーデンプレイスセンター広場ほか

東京都写真美術館

第6回 総合テーマ

「トゥルー・カラース」 TRUE COLORS

恵比寿映像祭は15日間にわたり、展示、上映、ライブ・パフォーマンス、関連イベントなどによって複合的に構成する、映像とアートの国際フェスティバルです。第6回恵比寿映像祭では「トゥルー・カラース」というテーマのもと、映像が映し出す現代社会の多様性を見つめ、世界がグローバリゼーションの一途をたどるなかで見失われていったものや、その波に呑み込まれることなく守られてきたものを再考するとともに、グローバリゼーションがもたらした新たな遭遇、接触、交流によって生み出されたものや、それらが示唆する未来の可能性についての考察を試みます。

「カラー（色）」は芸術表現において重要な要素であるとともに、文化や伝統、自然環境、さらには主義、思想や国家、人種などを象徴的に示し、「らしさ」や「本質」といった意味を内包することから現代社会における多様性を象徴的に示す言葉として用いています。既存のシステムに組み込まれた価値観ではなく、自発的に自由で本質的な価値を求めるうえで、多様な文化を受容し尊重していくことが、今後さらに重要となっていきます。

私たちは今まさに、グローバリゼーションがもたらした影響をふまえ、さらに様々なローカルな環境にも適応していくことで、急速に多様化していく新たな文化秩序の出現を目撃しようとしています。そうした中で、即時的、直接的に世界をとらえる映像というメディアの果たす役割はより一層重要となり、様々な映像表現によって、色とりどりの糸が織りなす現代の様相を視覚体験としてとらえることが可能となるのです。

恵比寿映像祭ディレクター
北澤 ひろみ

展示：

東京都写真美術館の全ての展示室を使用して、様々な映像表現が映し出す現代、その文化的、社会的な多様性へと眼差しを向けながら、同時にその制作過程やインスタレーションにおいても多様な展開を見せる映像作品を紹介します。

[出品予定作家]

朝海陽子（日本）／キムスージャ（韓国）／分藤大翼（日本）／ジョウシン・アーサー・リュウ（台湾）／シトー・ジェーラチ（ロシア）／シャジア・シカンダー（パキスタン）／タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン（オーストラリア）／ナルパティ・アワンガ a.k.a. オムレオ（インドネシア）／ハッサン・カーン（エジプト）／カミーユ・アンロ（フランス）／アンリ・サラ（アルバニア）／下道基行（日本）／アーケティック・パースペクティヴ・イニシアティヴ [マルコ・ペリハン、マシュー・ビーダーマン]（カナダ・アメリカ・スロヴェニア）／西京人[小沢剛、チェン・シャオシェン、ギムホンソック]（日本・中国・韓国）ほか

〈 自然環境や地域的な歴史、伝統、民族などによって培われてきた文化の多様性、豊かさを見つめ直す。〉



朝海陽子《ノーザリーウィンド》2011 [参考図版]

自然に寄り添いながら移動する渡り鳥の生態や風の流動性に着目し、フィルムに収めた写真作品。



ジョウシン・アーサー・リュウ《コラ》2011-2012

死者の魂が集まる太古からの巡礼地であるチベット、カイルス山への道程を記録した映像作品。

〈 グローバル化の波による、情報、コンテンツの共有によって繋がる世界、そこに生じる変容や摩擦を映し出す。〉



カミーユ・アンロ《偉大なる疲労》2013

世界の博物館のアーカイブを現代的な方法で示しながら、創世記の神話をもとにしたストーリーが繰り広げられる。

©ADAGP Camille Henrot 協力：サイレックス・フィルム、カメル・ヌメア（パリ）



シトー・ジェーラチ《ザ・タワー：ソングシュピール》2010

現代ロシアにはびこる搾取構造をミュージカルとしてユーモラスに描き出した作品。

〈メディアの進歩やグローバル化がもたらす新たなコミュニティの可能性、未来へのヴィジョンが示される。〉



西京人《ようこそ西京に一 西京入国管理局》2012
仮想の都市国家、西京国における新たな国家のモデルを示す。



アークティック・パースペクティヴ・イニシアティヴ
[マルコ・ペリハン、マシュー・ピーダーマン]
《イピタック__氷原と凍土、海原の向こうの研ぎ澄まされた感覚》2014 再構成[参考図版]
極地圏における継続的なフィールドワークから、超国家的な活動の可能性を探る。

上映：

上映プログラムでは多様性という主題がさらに拡がりを見せていきます。アジアからの発信として、東アジア、東南アジアの11の国と地域の現代美術作家の短編作品によるプログラムや、世界的に活躍目覚ましいアジアの映画監督の特集上映を行い、現代中国を代表する王兵監督の最新作《収容病棟》を2014年初夏の劇場公開に先駆けてジャパンプレミアとして上映します。また、国家、民族、セクシュアリティなどの問題を通して社会における個の存在について言及した作品や、映像人類学的視座によるプログラムが現代の様相を浮かび上がらせてます。

[上映予定作家] ケント・マッケンジー (アメリカ) / 宋冬 (中国) / タッド・エルミターニョ (フィリピン) / 白諦 (中国) / 藤幡正樹 (日本) / ラヴ・ディアス (フィリピン) / 王兵 (中国) / キム・キラ (韓国) / 王雅慧 (台湾) / 楊福東 (中国) ほか

[ゲスト・プログラマー] 川瀬慈 (日本) / ソ・ジンソク (韓国) / 松井茂 (日本)

[リンク先組織] オルタナティヴ・スペース・ループ (韓国)



王兵 《収容病棟》(香・仏・日) 2013
© Wang Bing and Y. Production
第70回ヴェネツィア国際映画祭特別招待作品



藤幡正樹《眼のうつつわ》1979

オフサイト展示：

「西京映像祭（仮）」 西京人

恵比寿ガーデンプレイスセンター広場（無料）



西京人《ようこそ西京に—西京オリンピック》2008

隣接する恵比寿ガーデンプレイスのパブリック・スペース、センター広場では、日本、中国、韓国のアーティスト・ユニット、西京人（小沢剛、チェン・シャオシヨン、ギムホンソック）による西京映像祭を行います。西京人は映像、インスタレーション、パフォーマンスなどの作品を通して、仮想の都市国家、西京国を建国し、新たな国家のモデルを示しています。世界各地で大規模な国際展に参加していますが、東京での作品の発表は今回が初めてとなります。

その他企画プログラム：

映像表現における現在の課題や社会的な動きについて議論する「シンポジウム」、国内外のアーティストによる「レクチャー」、映像の作り手・受け手・担い手が、カジュアルな雰囲気の中、作家や作品の背景に触れる「ラウンジトーク」など、映像というメディアについてさらに理解を深め発見を促す機会を提供します。また、恵比寿映像祭ならではの実験的な「ライブ」、恵比寿映像祭と地域の文化施設及びネットワークが連携し、さらにアートの軸に活性化させていくことを目的とした「地域連携プログラム」も実施します。

- シンポジウム 東京都写真美術館 1階上映ホール（定員190名・有料チケット制）
- レクチャー 東京都写真美術館 1階アトリエ（定員70名・有料チケット制）
- ラウンジトーク 東京都写真美術館 2階ラウンジ（無料）
- ライヴ ザ・ガーデンルーム（定員150名・有料チケット制）



第5回恵比寿映像祭「パブリックダイアリー」ラウンジトーク及びシンポジウムより

- 地域連携プログラム 恵比寿地域文化施設及びギャラリーなど



第5回恵比寿映像祭「パブリックダイアリー」地域連携プログラム NADiff a/p/a/r/t 及び 日記映像の可能性を考える/amuより

* 出品および出品作家については、変更する場合がございます。予めご了承ください。

開催概要：

名称：第6回恵比寿映像祭 トゥルー・カラーズ

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2014:TRUE COLORS

会期：平成26年2月7日（金）～2月23日（日） [2月10日（月）、17日（月）を除く15日間]

開館時間：10:00～20:00 ただし最終日平成26年2月23日のみ18:00まで

料金：入場無料 ※定員制の上映プログラム、イベント等については有料

会場：東京都写真美術館 全フロア／恵比寿ガーデンプレイスセンター広場ほか

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 〒153-0062

TEL：03-3280-0099 E-mail：yebizo_info@syabi.com

JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分・東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分（動く通路使用）

映像祭 WEB サイト：www.yebizo.com

主催：東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室（公益財団法人東京都歴史文化財団）

日本経済新聞社（予定）

共催：サッポロ不動産開発株式会社

後援：J-WAVE 81.3FM

協賛：東京都写真美術館支援会員

協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／東芝ライテック株式会社／東芝エルティールエンジニアリング株式会社／KyotoDU／ぴあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット（予定）

《 東京文化発信プロジェクトとは 》 * 恵比寿映像祭は、東京文化発信プロジェクトの一環として実施しています。

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

WEB サイト： www.bh-project.jp

【 恵比寿映像祭に関するお問合せ 】

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話：03-3280-0076 / ファクス：03-3280-0033 / e-mail：yebizo_info@syabi.com

【 プレスに関するお問合せ 】

恵比寿映像祭 プレス担当 平（たいら）、大西（おおにし）

電話：090-1149-1111 / ファクス：03-3280-0033 / e-mail：info@tmpress.jp

広報用写真：

本リリースで使用している写真は全て広報用画像としてご用意しております。①希望画像の作品名、②媒体名、③掲載予定時期を表記の上、広報担当者までご連絡ください。



1 キムスージャ 《針の女》1999 - 2001 協力:キムスージャ・スタジオ
Kimsooja, *A Needle Woman*, 1999 - 2001 Courtesy of Kimsooja Studio



2 ナルパティ・アワンガ a.k.a オムレオ 《bits & pix》2012
Narpati Awanga a.k.a Oomleo, *bits & pix*, 2012



3 タリン・ギル&ピラー・マタ・デュボン 《エヴァー・ハイヤー》2011
Tarryn GILL & Pilar Mata DUPONT, *Ever Higher*, 2011



4 シャジア・シカンダー 《ラストポスト》2010
Shahzia SIKANDER, *The Last Post*, 2010



5 宋冬 《食事風景》2005
SONG Dong, *Eating Landscape*, 2005



6 白誦 《身分 - シェンフェン - 》2013
BAI Di, *shenfen*, 2013

*ご使用時の注意点とお願い

- ◎ 写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ◎ トリミング、文字載せ、画像の二次使用はご遠慮下さい。
- ◎ 使用の際は事実関係の確認の為、記事校正をPDF形式でお送りください。
- ◎ 掲載誌又は、掲載記事を東京都写真美術館 恵比寿映像祭宛にお送りください。